

バルサプライチエーンの一端を担っている。  
狭山LSセンターの月間出荷数は40ftコンテナ

1長) 技術を維持し、品質向上と安全管理を推進している。

## 川崎陸送

### 国際物流の将来を見据え「博多営業所」を開設 通関、保管、流通加工、配送までを一貫サポート

川崎陸送(本社・東京都港区、樋口恵一社長)では、門司税関から通関業の許可を受け、博多港に「博多営業所」(福岡市東区)を開設した。同社では東京で菓子などの食品、アパレル、医薬品などの通関(他法令手続き含む)を手掛けているが、国際物流の将来を見据え、博多港の輸入物流拠点のポテンシャルに着目。BCP(事業継続計画)対策の一環として荷主に西日本の拠点を提案するため、博多港に進出したもの。今後、九州地区の既存の拠点と連携しながら通関をはじめとする物流サービスを提供していく。

なく、韓国・釜山港、中国・上海港のハブ化がますます進むと予想される。  
欧州や東南アジアのコンテナ船が釜山港や上海港を経由して日本に入港する際、地理的に近い博多港が有利で、「東京港と比較しても2〜3日リードタイムを短縮でき、今後博多港の利便が進む」と判断した。  
博多港進出の狙いのひとつがBCP対策で、首都直下地震の発生率が30年以内に70%と言われている中で、荷主に西日本の拠点として博多港を提案。博多港に在庫拠点を持つことで東日本のリカバリー拠点として機能できる。

2015年後半にパナマ運河が拡張され、コンテナ船が1万4000TEUクラスに大型化される。日本の主要港ではこうした「ポストパナマックス船」の入港に対応できる港はまだ少

なお、博多営業所は葛西流通センター(東京都江戸川区)をモデルとし、通関、入庫、流通加工、保管、出荷、配送まで一貫してサポート。西日本でのサードパーティー・ロジステイ

クス(3PL)を展開していく。

博多営業所は資本提携先のナカノ商会(本社・東京都江戸川区、沼澤宏社長)の博多支店内に置く。3万3000平方メートルの保管スペースを持つ物流センターで、保税蔵置場も完備し、通関と保税蔵置業務を同時に対応できる。

川崎陸送では九州地区に山口営業所(山口県山口市)、鳥栖営業所(佐賀県基山町)を構えており、両営業所と連携し、輸配送についても自社と品質の高い協力会社のネットワークでカバーしていく。

## 西友

### 「直接調達」によるSCMで、高品質・低価格を実現

#### 調達〜流通〜店舗を一貫し、アメリカ産豚肉を安定供給

ウォルマート・グループの西友(本社・東京都北区、ステイブ・デिकासCEO)は10日から、全国371店舗と「SEIYUドットコム」において、アメリカ産豚肉の肩ロースブロックとロース切身を、100gあたり10円値下げし、97円/100gでの販売を始めた。国産・輸入豚肉の価格高騰が続く中、同社はアメリカ産豚肉を直輸入することで、顧客へ低価格



で提供していく(イメージ図)。

同社は、牛肉の直輸入を進める中で蓄積した社内ノウハウと、社内の「生鮮食品満足保証プログラム」によ

って整備された検品や補充システムをはじめとする各プロセスを活用し、調達、流通から店舗での販売に至る、一括管理によるサプライチ

